

# 1の1 国語科学習指導案

第1日1限 1の1

授業者 田川 信子

## 1 単元名 くじらぐも

- 2 目標
- ・登場人物になりきり音読したり動作化したりすることによって、想像を広げ楽しく読むことができる。
  - ・自分の思いを文末まではっきり話し、友達の思いをしっかりと聞くことができる。

## 3 指導にあたって

### 本単元の基礎・基本について

この作品は、四時間目の体育の時間、空に大きな雲のくじらが現われる場面からストーリーが始まる。雲のくじらは、子どもたちといっしょに体操をしたり話をしたりする。そして、子どもたちが雲のくじらに飛び乗り大空を自由に泳ぎ回り旅するという展開である。ファンタジー色豊かなこの作品は、子どもたちの心と行動をそのままストーリー化したような物語であり、子どもたちはこの物語の世界に抵抗なく入り込んでいけるだろう。また、登場人物と一体化しくじらぐもと大空を旅する楽しさを十分味わってくれることだろう。表現上の特色としては、子どもとくじらぐもの対応がはっきりしており、「～も」「～が」「～は」などの表現をおさえることで、くじらぐもと子どもたちの関係が容易に読み取れるだろう。また、全体的に歯切れのよい文章なので、音読を効果的に取り入れて楽しく読み進めることができるだろう。

子どもたちは、これまで「だれにあえるかな」などの物語文を音読や動作化などの活動を通して楽しく読んできた。音読や動作化することは好きであるが、自由に想像を広げるあまり、文章の叙述から離れてしまうことが多かった。また、みんなの前では伸び伸びと自己表現できない子もいる。「聞くこと・話すこと」については、相手を意識して話すことや友達の考えをしっかりと聴くことはまだまだ十分でない。

本単元における基礎・基本を、「音読したり動作化したりすることにより、登場人物になりきり想像を広げながら読むこと」ととらえた。想像を広げて読むためには物語の世界にひたりきることが大切である。実際に雲を見上げ対話する経験をもとに本教材と出会った子どもたちは、「自分たちもくじらぐもに乗りたいな」という感想を持つだろう。その思いを音読劇作りへとつなげ、登場人物になりきって読む楽しさを味わわせたい。また、めあてにそって場面ごとに音読劇を作る活動では、互いの読みを聴き合う場を持ち、読みの根拠となる叙述についての話し合いを大切にしたい。自分の思いを伝え合う活動を通して、主体的に学ぶ楽しさを味わいながら国語科の本質に迫れるものと考ええる。

単元計画 (総時数 14時間)

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
1 全文を読んで感想を持ち 大きなめあてをもつ	
・好きなところ面白かったところを見つける	①②
・物語のあらすじをつかむ	
くじらぐもの音読劇を作ろう	
2 場面ごとに登場人物になりきって音読劇をつくる	
・どうしてくじらぐもがあらわれたのかな	②③④
→たいそうがしたかったんだよ	
くじらぐもは学校がすきなんだよ	
みんなのまねをしたかったんだよ	
・くじらぐもとお友達になれたかな	
→なれたよ さそい合ったんだよ	
やっぱりまねしているよ	
・くじらぐもにすくのれたのかな	
→みんなで一生懸命ジャンプしたからのれたよ	
くじらも応援してくれたよ 風もふいたよ	
・どんなお話をしながら空をお散歩したのかな	
→いろんなものが見えてきたよ	
楽しくお話しているよ	
・空のお散歩はいつまでつづいたのかな	
→四時間目の終わりのチャイムがなったら	
もうおわかれだよ また会いたいな	
3 「1の1くじらぐも劇場」を発表する	②④
・全部の場面をつなげて練習する	
・他のクラスや上級生に見てもらう	
4 学習のまとめをする	④
・くじらぐもにお手紙を書く	
・同一作者の作品にふれる	

学びを広げ深めるために

① 何ができて何ができないかを把握し実態に合った教材を選ぶ

本教材は、登場人物が多く自分たちと同じ一年生が登場するので、クラス全体で劇化することができる。そのため、自己表現が苦手な子も友達と大きな声で音読したり動作化したりすることができるだろう。音読活動を効果的に取り入れ、登場人物になりきって読む楽しさを味わいながら読み進めていける教材である。  
→登場人物になりきって表現する姿

② 子どもが自分なりにつかんだことを見て取り生かしたゆとりある授業展開を構想する

子どもが教材と出会った時「自分たちもくじらぐもに乗りたい」という感想を持つだろう。その思いを大切に「1の1くじらぐも劇場」を作り上げていくという目的意識を持たせながら学習を進めていきたい。読み取ったことが音読劇に生かされ、登場人物になりきって音読や動作化することでさらに想像を広げることができる。そのために、お互いの読みを聴き合ったり音読劇を見合ったりする時間的ゆとりを保障したい  
→主体的に言語に向き合う姿

③ お互いの考えを聴き合い話し合う場を設定する

自分なりに読み取ったことを互いに聴き合う場をもつことによって、さらに読みを広げ深めることができる。そこで、相手意識を持って最後まではっきりと話すことや友達の話の聴くときは話す人を見てしっかり聴くことを意識させたい。できるだけ主体的な話し合いの中で想像を広げさせたいが、深まらない場合は教師が出て焦点化したい。 →お互いの思いを伝えようとする姿

④ 自己の変容を自覚できる活動を取り入れる

子どもは、自己の変容を認められそれを自覚した時、自信をもつことができ伸びる。そこで本単元ではお互いの音読を聴き合いよさを見つけ合う場を設けたい。また、自分の読みの高まりをもとに内言を吹き出しに書かせ、登場人物になりきれた喜びを味わわせたい。  
→自分の変容に気づき生き生きと表現する姿

4 本時の学習 (6 / 14時)

ねらい くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちと、それを応援するくじらになりきって、音読したり動作化したりできる。

本時の展開

主な活動と内容	教師の働きかけ
<p>1 前時を振り返り、本時のめあてを明確にする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">みんなでくじらぐもとびのろう</div></p> <p>2 めあてについて話し合う          &lt;くじらぐもにすぐにのれるのかな&gt;      &lt;のってみよう&gt;</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>「みんなは、手をつないで              一、二、三」              「天までとどけ、              一、二、三」              「天までとどけ、              一、二、三」              「天までとどけ、              一、二、三」              「天までとどけ、              一、二、三」</p> <p>「乗りたい気持ちの高まり              そのときです。」</p> <p>「あつというまに              手をつないだまま              ふきとばしました。」</p> <p>「あつというまに              手をつないだまま              ふきとばしました。」</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>・声を合わせて、ジャンプしたら乗れるよ              ・大きい声だとたくさん飛べるよ              ・くじらも空から応援しているんだよ              ・三回目にジャンプしたとき風が吹いてきたんだよ              ・「あつというまに」手をつないだまま吹き飛ばされたんだよ              ・みんなの願いがかなったよ</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">もつとたくく もつとたくく くじらの応援</p> <p>3 くじらぐもにのったときの気持ちを吹き出しに書く              ・みんなでがんばってよかった ふしぎな風がふいたね              ・くじらぐもさん応援ありがとう</p> <p>4 本時のまとめをし 次時のめあてを持つ          &lt;くじらぐもに乗ってどこへいこうかな&gt;</p>	<p>くじらぐもの絵を掲示し意欲を喚起する</p> <p>心を一つにしてジャンプする子どもたちの様子 くじらの応援風が吹くタイミングについて叙述をもとに読み取らせる          叙述をおさえきれないときは「それで乗れるのかな」と問い本文にもどらせる</p> <p>グループで役割を決め動作化を交えた音読劇をさせ 乗りたいという気持ちの高まりに気付かせたい</p> <p>本時の学習を板書で振り返り最後に全員で音読劇をすることで表現する喜びを味わわせたい</p>

1 単元名 力太郎

2 目標 ・登場人物と同化することによって、場面ごとの想像を広げ、叙述と結び付けながら昔話を楽しく読むことができる。

3 指導にあたって

本単元の基礎・基本について

本単元の学習材「力太郎」は岩手県和賀郡更木村に残る「こんび太郎」の再話である。働いても働いても、ふろに入れないほど貧しいじいさま、ばあさまのあかから生まれた「こんび太郎」が二人の愛情に支えられ、すごい力を持った見上げるような大きな若者「力太郎」に成長する。「この力が、どんくらい人のやくに立つものか、ためしてみてえ。」と旅に出て、めぐり会った「みどうっこ太郎」「石こ太郎」とともに、人々を困らせている「化け物」を退治し、人々の役に立ち、幸せに暮らすという、エネルギーに満ちた力と行動を基本にした奇想天外な内容で展開する昔話（民話）である。また、人物や物の表現に擬態語・擬声語が効果的に用いられており、話を力動感あふれたものにしてしている。これらは、民話独特の語り口とあいまって音読や動作化の好きな子どもたちに喜んで受け入れられるにちがいない。

「力太郎」を読んだ子どもたちは、力太郎の誕生のおもしろさに心ひかれ、「じいさま、ばあさまのこんびを集めて作った小さな人形が力太郎になったのはどうしてか。」という疑問を持つと思われる。子どもたちは本当のわが子のようにこんび太郎をかわいがるじいさまやばあさまの優しさは「そうと、えじこに」「三度三度どっさりまんまを」などの叙述から読めると思われるが、

「何年もの間、三度三度どっさりまんまをやること」「むりにむりをして、金ぼうをたのんでやること」が貧しい生活の中ではどんなに深い愛情であるか読み取ることが難しいと思われる。そこで、音読を繰り返したり、動作化をしたりするなかで様子や気持ちをあらわす言葉に目をむけさせ、二人の貧しさとつなげて読むことによって、二人の深い愛情に気付かせたい。そのことが力太郎の優しさにつながっていくとともに「人のやくに立てたかな」という本単元のめあてを追求する土台となるのである。

本単元は登場人物と同化することによって想像を広げ、叙述と結び付けながら昔話を楽しく読むことが基礎・基本となる。登場人物になりきって、主体的に読む楽しさを味わいながら、お互いの読みを聴き合う場をもつことによって、さらに読みを深めることができると考える。お互いの思いを伝え合う場を通して本質にせまっていけるものと考えている。

単元計画 (総時数15時限)

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
1 全文を読んで感想を持つ ・ひとり学習をする	①③
2 感想を話し合い粗筋をつかみ大きなめあてをもつ 力太郎は人のやくに立てたかな	②③
3 めあてにしたがってくわしく読みとっていく ・こんび太郎をつくったのはどうしてかな →じいさまとばあさまは子どもがほしいけどできないし 貧しくて何も無いから せめてこんびで人形をつくったよ ・どうしてこんび太郎が力太郎になったのか。 →貧しいじいさまとばあさまが本当のわが子のようにかわいがり 世話をしてくれたからだよ ・化け物を退治することになったのはどうしてかな。 →あねこの哀しい気持ちがわかって三人は化け物を退治することになったんだよ ・退治できたのはどうしてかな。 →三人で力を合わせて何としても娘を化け物から救おうとしたからだよ ・力太郎たちは幸せになれたかな。 →ゆったりおちついてのんびりくらせるようになったよ	②③
4 ふりかえりをしよう	④
5 一年生に民話を読み聞かせしよう	②

学びを広げ深めるために

① 何ができて何ができないかを把握し 実態にあった教材を選ぶ

子どもたちは、登場人物になりきって、動作化したり、音読したりことは好きである。少しずつ叙述にも目を向けて読みとることもできつつあるが、叙述と叙述をつなげて考えることは不十分である。「力太郎」は長文であり、子どもたちにとっては抵抗が大きいと思われるが、ストーリー展開もおもしろく、民話独特の語り口やリズムカルな文章は「力太郎」になりきって興味を持って読み進めることができる教材である。→登場人物になりきって読もうとする姿

② 子どもが自分なりにつかんだことを見て取り生かしたゆとりある授業展開を構想する

子どもたちが「力太郎」と向き合い自由に想像する段階をたいせつにしたい。そして、ひとり学習で持ったひとりひとりの感想や疑問をもとに全文を概観しながら子どもたちと共に学習問題をつくり、見通しを持って読み進めさせたい。→主体的に言語に向き合う姿

③ お互いの考えを聴き合い話し合う場を設定する

自分なりに読みとったことを聴き合ったり話し合ったりすることによって、自分の考えに自信が持てたり、新しい発見をしたりして、読みが広がったり深まったりする。そのために相手にしっかり伝えようとする話し方や自分の考えと比べて聴こうとする聞き方を大切にしていきたい。→意欲をもって伝え合おうとする姿

④ 自己の変容に気づくために書く場を保障する

叙述をもとにイメージ豊かに想像することによって、子どもたちは民話の世界に入り込み「力太郎」になりきって読み進めていける。毎時間のふりかえりの場面でなりきって考えたことをノートやふきだしに書く場をもうけることによって、自己の変容に気づくとともに次時への意欲につながると考えた。→自分の深まりに気づく姿

4 本時の学習 (7 / 15時)

ねらい こんび太郎から力太郎になる様子を叙述をもとに力太郎になりきって読みとるとともにじいさまやばあさまの深い愛情に気づくことができる

展 開

主な活動と内容	教師のはたらきかけ		
<p>1 本時の課題を明確にする                      &lt;こんび太郎が力太郎になれたのはどうしてだろう&gt;                      ・こんび太郎が力太郎になった場面を見つけよう                      金棒をつえに⇒えいえいおうと立ち上がり⇒やあっとせのびした⇒もっこらむっくらせいがのびて⇒見上げるようなでかいわかものになった⇒そして、金棒を大根みたいに振り回して見せて</p>	<p>動作化することによってこんび太郎から力太郎への変化をとらえやすくする</p>		
<p>2 各自考えを持ち聴き合う</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td data-bbox="166 1458 485 1765"> <p><b>こんび太郎</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぱくんと食ったよ</li> <li>・わしわしとよく食ったよ</li> <li>・何年もねたまんだったよ</li> <li>・百貫目の金棒をじいさまにのんで作ってもらったよ</li> <li>・それをつえにでかい若者になったよ</li> </ul> </td> <td data-bbox="489 1458 1039 1787"> <p><b>じいさま ばあさま</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じぶんたちのこんびで小さな人形をつくったよ</li> <li>・かわいがったよ⇒目を細めて ⇒まっ黒けじゃが、かわええ ⇒こんび太郎と名づけましょ ⇒そうっと、えじこにねかせた</li> <li>・ほんとの子どもにするように、おわんにまんま</li> <li>・三度三度、どっさりまんまを</li> <li>・何年もそだてたよ</li> <li>・むりにむりをして、金棒をたのんでやったよ</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p><b>こんび太郎</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぱくんと食ったよ</li> <li>・わしわしとよく食ったよ</li> <li>・何年もねたまんだったよ</li> <li>・百貫目の金棒をじいさまにのんで作ってもらったよ</li> <li>・それをつえにでかい若者になったよ</li> </ul>	<p><b>じいさま ばあさま</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じぶんたちのこんびで小さな人形をつくったよ</li> <li>・かわいがったよ⇒目を細めて ⇒まっ黒けじゃが、かわええ ⇒こんび太郎と名づけましょ ⇒そうっと、えじこにねかせた</li> <li>・ほんとの子どもにするように、おわんにまんま</li> <li>・三度三度、どっさりまんまを</li> <li>・何年もそだてたよ</li> <li>・むりにむりをして、金棒をたのんでやったよ</li> </ul>	<p>読みが深まらないときは「そんなに貧しい二人なのに、どうして何年も三度三度どっさりまんまをやったの」と問い、二人の深い愛情にまで気づくようにしたい</p>
<p><b>こんび太郎</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぱくんと食ったよ</li> <li>・わしわしとよく食ったよ</li> <li>・何年もねたまんだったよ</li> <li>・百貫目の金棒をじいさまにのんで作ってもらったよ</li> <li>・それをつえにでかい若者になったよ</li> </ul>	<p><b>じいさま ばあさま</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じぶんたちのこんびで小さな人形をつくったよ</li> <li>・かわいがったよ⇒目を細めて ⇒まっ黒けじゃが、かわええ ⇒こんび太郎と名づけましょ ⇒そうっと、えじこにねかせた</li> <li>・ほんとの子どもにするように、おわんにまんま</li> <li>・三度三度、どっさりまんまを</li> <li>・何年もそだてたよ</li> <li>・むりにむりをして、金棒をたのんでやったよ</li> </ul>		
<p>ふろなぞ、めったに入れないくらいまずしいじいさまとばあさまが、本当のわが子のように何年もかわいがり、世話をしたから力太郎になれたんだよ                      じいさまとばあさまの優しい気持ちを体いっぱいにもらったから力太郎になれたんだよ</p>	<p>効果的な板書を心がけ、ふりかえりの場では、ノートに書く</p>		
<p>3 次時のめあてをもつ                      ・力太郎は旅にでるよ 自分の力がどんだけ人の役にたつためせたかな</p>			

# 6の1 国語科学習指導案

第1日2限 6の1

授業者 草鹿 万里

## 1 単元名 海の命

2 目標 ・太一に自分を重ね合わせて、太一の成長する様子と心情を叙述に即して想像豊かに読みとり、自分自身の生き方についても考えを深めることができる。

## 3 指導にあたって

### 本単元の基礎・基本について

この単元は、代々海で生まれ育ち、海を守り続けて、そして海へ帰っていった父やその父たちが住んでいた海で生きていく太一の心と体の成長の様子を描いた作品である。

海で生まれ、育つ中で、父がクエをとらえようとして海で亡くなった。太一は父の瀬で働く和吉じいさに弟子入りし、数年後に太一は和吉じいさに「村一番の漁師」と言われるまでになる。太一は父を破ったクエを追い求め、とうとうクエに出会う。しかし、太一はクエを打つのをやめるのである。

子どもたちは、これまでの学習で、叙述から登場人物の心情をある程度想像できるようになってきている。しかし、この物語には、太一の心情を自信をもって豊かに想像できるほどの叙述があまりないので、想像するのはたいへん抵抗があると思われる。

しかしながら、「どうしてクエを打たなかったのか」という疑問を深く追求することは、海に生きるすべての命を包み込む海の豊かさと、その命を尊いものとして大切に守ろうとした太一の成長に気づくことになる。と同時に、子どもたちにも海の豊かさや命を大切にする心を自然に育んでいくことになるだろう。ひいては、海の命にとどまらず、これから子どもたちが生きていく世界の中で、「生きるとは」また、「命とは」を考えるきっかけとなると思われるので、今の子どもたちにぜひ読ませたい物語である。

### 単元計画 (総時数 12時間)

そこで、どうしてクエを打たなかったのかという疑問を子どもたちにおつけることが大きな課題となるだろう。しかしながら、この疑問は子どもたちの自己研究の中で自然と生まれるものと思われる。自然に生まれたこの課題を本単元の大きなめあてとし、読みに入っていくたい。太一が自然の豊かさに気づくには、成長過程で父親や和吉じいさの考えに大きく影響されているので、これらを大切に読んでいきたい。

また、海の美しさを表している場面の優れた叙述に気づかせることで、作者がこの物語を書いたわけについても考えさせ「海の命」の主題にふれたい。

本単元は、自分を重ね合わせて太一の心情を想像することが基礎基本になる。叙述をもとに豊かに想像することが大切であるが、子どもが互いに聴き合うことでさらに深まるので、互いに聴き合う場を持つことによって本質に迫っていけるものと考えている。

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
1 全文を読んで自己研究をする	
2 感想から粗筋をつかみ大きなめあてをもつ	①③
どうして太一は瀬の主を打たなかったのだろう	②③
3 めあてにしたがって想像し読みとる	
・太一が漁師になったのは？	②③
→海が好き 父と同じ漁師になりたかった	
・むりやり和吉じいさの弟子になったのは？	
→どうしても父の海で漁師になりたかったんだ クエを打ちたかったのかもしれない	
・ずっと弟子のままかな？	
→和吉じいさのおかげで村一番の漁師になれたよ 漁師なのに「千匹に一匹でいい」から二十四 だけとんだ＝海をととても大切にしている	
・自然な気持ちで両手を合わせることができたのは？	
→人の命も海から生まれるもので 最後は海へ帰 るのが自然だと思えた 太一が成長した	
・父の海にやってきたのは？	
→父を破ったクエを打ちたかったから	
・打ちたかったクエを打つのをやめたのは？	
→太一が心の成長をしたから 大魚はこの海の命だと思えたよ	
4 学習を振り返る<海の命とはなんだろう>	④
5 同一作者の作品を読もう 「天とくつついた島」等	

学びを広げ深めるために

① 何ができて何ができないかを把握し 実態にあった教材を選ぶ

子どもたちは、叙述から登場人物の心情をある程度想像することはできるが、豊かに想像するまでにいたらない子が多い。本単元は、主人公に身を寄せて、その心情を豊かに想像し自分自身の生き方にまで考えを持つにはたいへんいい教材だと思われるので、今の子どもたちに適していると考えた。  
→主人公に身を寄せて心情を深く想像しようとする姿

② 子どもが自分なりにつかんだことを見て取り生かした ゆとりある授業展開を構想する

一読すれば、多くの子が「どうしてクエを打たなかったのだろう」という疑問にぶつかる。この疑問を読みのみめあてとしたい。子どもから生まれた疑問なので子どもは主体的に考えようとするであろう。また、この疑問を考えることは、海の命を大切にしようとした太一の心の成長に気づくことにつながり、子どもが自らの生き方を考えるきっかけとなるであろう。  
→主体的に課題を追求しようとする姿

③ お互いの考えを聴き合い話し合う場を設定する

叙述から心情を想像することはできても、その想像したことに自信を持つためには、友だちの思いを聴くことが大切であると考え。そのために、互いの考えを聴く場が必要であると考えている。  
→考えを意欲的に聴こう話そうとする姿

④ 自己の変容に気づくために書く場を保障する

単元のふりかえりの段階で書く場を持つことによって、自己の変容に気づき、さらに、変容した自分と向き合い、太一に自分を重ねて自己の生き方まで考えをもつことができると考えた。  
→自分と向き合い自己の生き方を考えようとする姿

4 本時の学習 (9/12時)

ねらい 追い求めていた瀬の主を打ちたい気持ちを納得させて海の命を守った太一の心の成長を叙述から豊かに想像することができる。

本時の展開

主な活動と内容	教師の働きかけ
1. 本時の課題を明確にする	打つのをやめたのは「もりの刃先を足のほうにどけ」たところでわかることを明確にする
<p>&lt;クエを打つのをやめたのは?&gt;</p>	打つのをやめたわけは もりを突き出したところともりをどけたところの間にあることを押さえる
2. 各自考えを持ち互いに聴き合う	「こう思うことによって」太一は自分を納得させたのだが「大魚はこの海の命だと思えた」のは自然に「思えた」ことに気づかせ 太一の心の成長に迫りたい
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15%;"> <p>大魚はこの海の命だと思えた</p> <p>成長 ←</p> </div> <div style="width: 60%; text-align: center;"> <p>ふつとほほえみ</p> <p>もりの刃先をどけ</p> <p>もう一度笑顔を作った</p> <p>「おとう、ここにおられたのですか」</p> <p>こう思うことによって、</p> <p>瀬の主を殺さないですんだのだ</p> </div> <div style="width: 15%; text-align: right;"> <p>太一</p> <p>追い求めていたうちに、</p> <p>不意に夢は実現</p> <p>見失わないよう</p> <p>全体は見えない</p> <p>百五十キロはゆうにこえている</p> <p>鼻づらに向かってもりを突き出す</p> <p>クエは動こうとはしない</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 10px;"> <p>← やめたわけ →</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 30%;"> <p>この大魚は殺されたがっている</p> <p>おだやかな目</p> <p>太一を見ていた</p> <p>瀬の主は全く動こうとはせず</p> <p>もう一度もどつてきても</p> <p>そうしたままで時間が過ぎた</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>泣きそうになりながら</p> <p>こんな感情：初めて</p> <p>この魚をとらえなければ</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>打ちたい!!</p> <p>← 打ちたい…でもやめた自分を納得させた</p> <p>← 打たなければ…けれど…</p> <p>← 自然に</p> </div> </div>	
3. 自分なりにノートに振り返りをする	<p>瀬の主を打たないことで太一は海の豊かさを守ったんだ</p> <p>成長した太一には 自然と 大魚が海の命に思えたよ</p>